



New Partnership

第 8 号 平成 2003 年 1 月 1 日 安足教育事務所ふれあい学習課
TEL.0283-23-1471 FAX.0283-23-4274 mail:ansoku-kyouiku@pref.tochigi.jp

子どもの問題提起

安足教育事務所長 高橋 知俊

「こころの中がもやもやしている。」

子どもたちの、私たち大人に対しての問題提起です。大人に対する訴えです。そのもやもやがさまざまな問題行動につながっているようです。

そのもやもやを払拭してあげるべくひとつの方法として、今、ふれあい学習、ふれあい活動と、人と人のふれあう場の設定が盛んであります。子どもたちの心を育てる意義ある活動です。その時、忘れてはならないことがあります。「ふれあい」の前に「心と心の」が省略されていることです。「心と心のふれあい」をどうするかを常に念頭に置き、子どもたちの琴線にふれる活動を考えていかなければならないと考えます。

あいさつ運動が盛んです。これも人と人とのふれあい

す。人と人とがかかわる大切なことですが、あいさつプラス1があればなお効果的と考えています。プラス1とは「おはよう」の次のひとことです。たとえば、登校中の子に「おはよう、車に気をつけてね。」「今日も元気だね。」「今度の大会がんばれよ。」というプラス1です。家庭でも、学校でもこのプラス1が必要ではないでしょうか。

総務省の調査で「人といると疲れる小中学生は5人にひとり」(小学4年生から中学3年生)となっています。気になる結果です。子どもたちは、人とかかわる機会、ふれあう機会が少ないからではないでしょうか。人とのかかわりやふれあい

で喜びを感じていないのではないのでしょうか。子どもたちの心のもやもやが晴れるための策を講じていかなければならないと、改めて痛感しているところです。

心ふれあう地域づくりをめざして (5)

よみがえれ、子どもの遊び場 所長補佐兼ふれあい学習課長 清水 武治

最近幼なじみが逝ってしまった。(合掌)子どものころ実によく遊んだ後輩でした。学校から帰ると、陽が落ちるのを惜しみつつ、川原や林そして庭先、近所の田畑を「遊びの道場」にして駆け回りました。当時のことがつい昨日のように思い起こされます。私が幼かったころ、我が兄弟とともに近所には実に多くの子どもたちが戯れていたように思います。遊びは季節に応じての「流行」もあったように記憶しています。暖かく陽の長い時期には三角ベースに熱中し、寒い日は密集してのペーゴマに人気が集まりました。遊びのルールは仲間内にしか通じないものであったが、その解釈で口角泡をとばしての激論もしばしば起こり、話合いが決裂、追いかけてたり追いかけられたりなど、遊びの中の喧嘩は日常茶飯事だったように思います。

また、近所の大人が怖かった。田畑に入れば固まってしまうと叱られたし、走り廻れば「やかましい。危ない。」と叱られ、喧嘩をすれば「仲良くしろ。」と叱られました。今思えば、大人たちは「叱った。」というより、「常に見守って遊ばせていた。」といった方が良いかも知れません。子どもは「常に見守られて遊べた。」のです。

いつのころからか、休みの日にさえも近所で子どもの歓声をあまり聞かなくなりました。時折河川敷から聞こえて来る野球やソフトボールに興ずる子どもたちの声も、指導者の叱責や保護者の悲鳴とも思われる奇声にかき消されてしまうことがあります。子どもの周りから、遊びの天才である子どもを「見守れる大人」が少なくなってしまったのかな、と考えてしまいます。はたまた、「子離れのできない大人」が増えてしまったのでしょうか。とにもかくにも、子どもと子どもを取り巻く環境が時代とともに確実に変わっていることは確かなようです。

さて、久しぶりに日光東照宮を参拝する機会がありました。以前拝聴した、日光東照宮禰宜 高藤晴俊氏の講演を思い起こし、「三猿」で有名な厩にかかると陽明門の欄干にある「唐子の遊び」の彫刻をしみじみと眺めて来ました。今から360年以上も前に、時の社会を司っていた人々が彫刻を通して「子育ての大切さを後生に残す」と考え、現代社会にも十分に通ずる教育論、子育て論を示した先見性に改めて驚かされました。

来年度文部科学省では、近年の子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急的課題に対応し、未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育てるため、地域の大人の教育力を結集し、学校や公民館・地域の施設を活用して、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動など様々な体験活動や地域住民との交流活動を支援する指導員を派遣し、緊急かつ計画的(3か年で全国定着化)に子どもの居場所を整備する「子どもの居場所づくり新プラン」をスタートさせます。子どもに、安全にかつびのびと活動のできる居場所を計画的に確保し、常に見守ってくれる大人を配置しようとする事業です。この事業を通し、それぞれの居場所において「遊びの天才」がどのようなルールづくりをし、どのような人間関係を築いていくか今から楽しみです。この事業の主人公は子どもたちであり、大人は「見守る人」であって欲しいと願っています。本事業への御理解と御協力を願っています。



田沼町ウィークエンド・コミュニティスクールより

地域と学校の協働によるふれあい学習を目指して



学校と地域をつなぐボランティアになろう - 安足地区学校支援ボランティア研修より -

「子どもたちは、学校支援ボランティアの皆さんを待っています。子どもたちが聞きたがっているのは、上手な分かりやすい説明ではありません。先生とは違った説明の仕方、使い込まれた地域の言葉や方言、暮らしや地域になじんだ生活感覚、そんな日常が教室での学びを揺さぶるのです。ぜひ、子どもたちに豊かな学びや体験を伝えてください。」というメッセージのもと、足利地区研修会・安佐地区研修会、合同研修会を開催しました。延べ374名が参加し、熱心に研修を行いました。

【研修した内容】

- 1 学校を活躍の場としたボランティアの意義
- 2 学校の様子やしぐみを知ろう（安佐地区）
- 3 子どもとの接し方や分かりやすく教えるポイント
- 4 学校（市民）へ私たちの活動を知らせよう
 - ・活動プログラムづくり（安佐地区）
 - ・学校ボランティア市を開こう - 企画と実施 - （足利地区）
- 5 合同研修
 - 講演「学校支援ボランティアが地域や学校を活性化する」
 - 宇都宮大学生涯学習教育研究センター教授 廣瀬隆人氏
 - 交流会（講演をもとに、活動の充実について協議）
- 6 これからのボランティア活動を考えよう（足利地区 2月予定）



研修風景から



学校支援ボランティア活動（子どもたちのためのボランティア活動）は、学校や地域を生き生きとさせます



- 学校や子どもたちのために、地域のために何かしたいという熱い思いがあれば、特別な知識や技術・経験が無くてもできます。子どもたちといっしょに歩もう。
- 学校支援ボランティアの活動が、学校と地域が支え合い子どもを育むよい関係をつくり、多くの大人が力を合わせ子どもとかかわり健全な子どもを育ていく地域へと変えていきます。学校支援ボランティアは、学校と地域が協働で進めるふれあい学習の主役です。
- 学校の先生とボランティアをつなぎ、楽しくより充実した活動ができるしくみづくりやコーディネーターの活動も大切です。公民館・教育委員会の皆さんや学校の先生方とボランティアの皆さんで話し合い、たくさんの地域の人がボランティアとして、子どもたちの教育活動にかかわり、楽しく活躍できるしくみづくりを進めましょう。



ふれあい学習情報コーナー

秋晴れのさわやかな 10月4日(土)、親子・地域の方々107名が蓬山ログビレッジに集まった。田沼町では、毎月第1土曜日を「地域の日」として、全公民館で、『ウィークエンド・コミュニティスクール(主催:田沼町教育委員会)』を展開している。今回は、年間2回ある全体活動の一つとして、町レクリエーション協会・ためまネイチャーゲームの会が主管となり、「全国一斉自然とふれあうネイチャーゲーム大会」が開催された。



【プログラムのねらい】

親子ハイキング(蓬山ログビレッジ~蓬山城)をしながら、様々な自然の美しさに触れたり、自然を感じたりする活動を通して、「旬」である秋を再発見していく。

- 参加希望に応じてグループ編成をし、ネイチャーゲーム公認指導員とレクリエーション指導者が組になって「ネイチャーピング」、「カメラゲーム」、「目かくしイモ虫」、「蓬山城ハイキング」を実施した。地域ボランティアの方々が企画・運営に当たり、参加者同士の交流はもちろん、フィールドの様々な動植物とふれあい、自然を感じ、自然の恵みに感謝し、自然を大切に思う心を高めていった。
- 親子または公民館単位での参加により、大人と子どもが共に活動し、共に感じ合うことができた。
- 地元の方の好意により、「栗拾い体験」をすることもできた。会場から自宅へ向かう途中、栗林に立ち寄り、思い思いに秋の一日を満喫していた。

人権アクトイン栃木安足地区集会



この集会は、参加型学習の理論とプログラム立案・展開・評価に関する実践的な知識・技術についての研修を行い、人権に関する参加型学習を進める指導者の養成を図ることを目的として、平成9年度から開催しているものです。

【第1日目: 10月28日(火)】

- 桜井・法貴グローバル研究所長桜井高志氏による講義・演習「人権学習に活かす教師のためのワークショップ」をもとに、「基底の指導(内容ウ)に配慮した学習プロセスの工夫」について各教科等の指導における問題点や効果的な指導の在り方を9班に分かれて研究協議しました。

【第2日目: 11月13日(木)】

- プログラム企画コースでは、「参加体験型学習の良さを生かしたプログラムの視点」参加体験型の人権学習を進めるために について、安足教育事務所小池正勝副主幹による講義と実習を通して、日常生活に生きる人権感覚・人権スキルをはぐくむポイントを考えていきました。

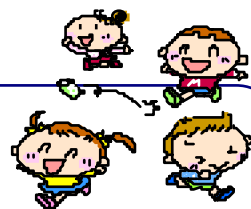
課題やテーマに基づいて、個人やグループで身体や五感を使い実感を大切に活動を通して、社会を人権の視点で見直すことが大切である。
(社会参加・社会参画への第一歩として)

- ファシリテーション技法コースでは、『「心の窓」を開く・その<心>』人間関係を円滑にするアクティビティづくりを通して について、宇都宮大学生涯学習教育研究センター助教佐々木英和氏による講義と実習を通して、ファシリテーションの基本的考え方と技法について、自分探しと他者との関係をもとに考えていきました。

「自分らしさ」を発揮することが、自己実現につながっていく。これが、人権教育にとってのベースになるべきではないだろうか。



地域で進めるふれあい学習



葛生町では・・・子どものための地域づくり推進地域の実践



親子で流しそうめん - 葛生町エクボの会 -

子育て支援団体エクボの会は、学校週5日制を踏まえて、毎月第1土曜日に0歳児から小学生までの親子・家族を対象に「子育ておしゃべりサロン」を葛生町中央公民館常盤分館で開催しています。

夏休み企画「水で遊ぼう（プール・水鉄砲・流しそうめん）」では参加できなかったたくさんの子供たちから、「ぜひもう一度やってほしい」との要望があり、9月6日に第2回目を企画したところ100名以上の参加があり、楽しいひと時を過ごしました。参加募集のチラシを各小学校で配ってもらうなど、地域と学校が密接に協力し合い、これからも親子や地域のふれあいの場を提供していきます。

八木節に挑戦 - 葛生町常盤地区 -

子どものための地域づくり推進地区として昨年に引き続き指定された常盤地区は、ふれあい学習活動として復活させた常盤音頭を、今年も常盤小学校の運動会や常盤地区納涼祭で子どもと大人が一つの輪になり踊りました。

また、今年は三つの町内会で地域の大人たちが子どもたちに八木節を指導し、納涼祭ではそろいのハッピーで太鼓を叩く子、踊りを踊る子等、三つの町内会が競い合うように日ごろの練習の成果を披露しました。

これからも、子どもたちが地域の一員として育っていく環境づくりをしていけたらと思っています。また、子どもだけではなく、そこにかかわる大人もふれあいの大切さを感じてもらえればと思います。

(安足地区ふれあい学習企画委員 廣瀬恵子)



足利市では・・・子どものための地域づくり推進地域の実践

地域の大人が力を合わせ進める子どもたちの体験活動 - 足利市三和地区 -



三和地区では、子どもを核にしたふれあい学習の取り組みを、自治会・育成会・体育協会・小中学校PTA・社会福祉協議会等が主体となり、地域全体で様々な人々の協力により実施しています。

開催された今年の活動は、大人も子どもも地域がひとつになって楽しく交流したPTA夏まつり。高原植物が咲き乱れる高原へのハイキング。自然観察や自然体験から、協力、責任、規律など共同生活に大切なものを学んだキャンプ体験。中学生がリーダーとして活躍しました。

地域の芸術文化発表の機会である文化祭では、作品の展示や同時開催された親子スポーツ体験（ベタンク競技）、わくわくコンサートに、子どもたちも地域の一員として張り切って参加しました。

敬老会では、中学生が吹奏楽演奏で参加し、おじいちゃんとおばあちゃんと楽しいふれあいの時間を過ごすことができました。

また、手植えで行う田植え、手押し道具での田の草取り、鎌を使った稲刈り体験など年間を通しての農業体験や炭焼き、しめ飾りづくり、家庭教育に関する教育講演会も実施して来ました。

今後も、子どもたちの豊かな体験と学び・交流の機会を、子どもと一緒に創り出し、地域ぐるみで心豊かな子どもを育てる環境や地域づくりを推進していきたいと思っています。

(足利市三和地区子どものための地域づくり推進会議 林 始子)